

図 2-21. 「動脈血液ガス分析Ⅱ」の症例報告の Moodle 画面

症例報告

1 * 実施した日時は？

「年/月/日」形式を使用してください。例：1945年3月14日 1945/3/14

2 * 実施した行為は何の特定行為ですか？

3 * 年代は？半角数字で回答ください。

4 * 性別は？

選択...

5 * 診断名は？

図 2-22. 「動脈血液ガス分析Ⅱ」の症例報告の詳細画面(一部)

第Ⅲ章 ICT を活用した学習支援方法

1. 受講者同士でのディスカッションを取り入れた学習方法

1) フォーラムの活用

LMS の Moodle の機能として、フォーラムというものがあります。フォーラムには、以下のタイプが設定できます。

表 3-1. Moodle におけるフォーラムの種類

Q&A フォーラム	学生は他の学生の投稿を読む前に自分の考え方を投稿する必要があります。
トピック 1 件のシンプルなディスカッション	誰でも返信できる単一のディスカッションです（分離グループには使用できません）。
ブログフォーマットで表示される標準フォーラム	ブログフォーマットで表示される標準フォーラム
一般的利用のための標準フォーラム	誰でも常に新しいトピックを開始できる開かれたフォーラムです。
各人が 1 件のディスカッションを投稿する	それぞれの学生が誰でも返信できる厳密に 1 つのディスカッショントピックを投稿できます。

(Moodle ヘルプ画面より引用)

さらに、購読をするモードの設定も以下のようにでき、受講者と指導者・管理者とのやり取りだけでなく、受講者同士でも意見交換ができる機能です。

表 3-2. フォーラムにおける購読の種類

任意購読	ユーザは投稿通知の電子メールを受信するかどうかを選択することができます。
強制購読	すべてのユーザに投稿通知の電子メールが送信されます。ユーザは購読を解除することはできません。
自動購読	すべてのユーザに投稿通知の電子メールが送信されます。ただし、ユーザは購読を解除することができます。
購読停止	すべてのユーザが投稿通知の電子メールを受信できません。

(Moodle ヘルプ画面より引用)

また、受講者がファイルを添付できる機能もあり、課題を提出させ、受講者同士で提出された他者の課題を閲覧して、意見交換をすることが可能であり、ICT を活用した演習に利用できます。

ここでは（図 3-1、図 3-2、図 3-3、表 3-3）、事例検討のアセスメントレポートを各受講者がフォーラムに提出し、意見交換を行い（図 3-4）、最終レポートとして再提出する例を以下に示します。

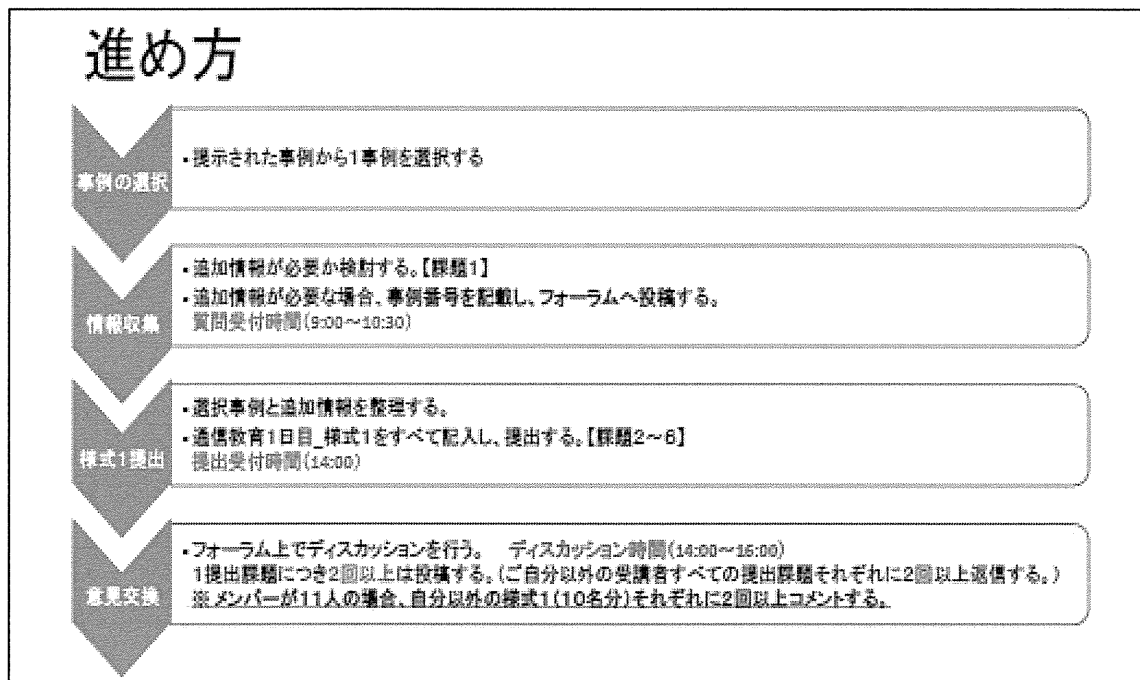


図 3-1. フォーラムの進め方の説明例

通信教育 1日目





	第1期・第2期共通一様式1 - 20.5KB	<input checked="" type="checkbox"/>
	2016年02月08日より利用可	
	はじめに：第1期（2月8日～2月12日）受講者用 242.1KB	<input checked="" type="checkbox"/>
	通信教育1日目の説明です。	
	以下に合致しない限り利用できません:	
	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 2016年02月08日 またはそれ以降 ▪ 2016年02月08日 17:00 以前 ▪ あなたが第一期に属している場合 	
	第1期：質問受付【課題1】	<input checked="" type="checkbox"/>
	以下に合致しない限り利用できません:	
	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 2016年02月08日 09:00 以降 ▪ 2016年02月12日 09:00 以前 ▪ あなたが第一期に属している場合 	
	第1期：課題提出・意見交換【課題2～課題6】	<input type="checkbox"/>
	以下に合致しない限り利用できません:	
	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 2016年02月08日 またはそれ以降 ▪ 2016年02月12日 09:00 以前 ▪ あなたが第一期に属している場合 	

図 3-2. Moodle 上のフォーラム画面

表. 3-3. ICT を利用した演習企画案

I. 通信教育 1日目

事例について1つ選択肢し、以下の6つの課題に取り組みなさい。

【事例1】

- 1) 基本情報：80歳、男性、息子夫婦と孫2人、5人暮らし。
身長162cm、体重68kg
- 2) 現病歴：もともとは元気がよく活動的であったが、4日前から食事をしていない。会話時につじつまのあわないことを話し、自分の部屋がわからなくなり、昨日は失禁もあって息子に付き添われて受診した。
- 3) 既往歴：35歳時に胃潰瘍にて胃切除術を受けた。1か月ほど前に自宅玄関で転んだが、特に問題はなく、前頭部が腫れた程度だった。
- 4) 来院時の様子
診察室へは独りで歩けずに、支えられてやっと歩いて入院した。患者は、ぼーっとしており、力がなく息子に付き添われて座っている。
息子は、ボケてしまったのではないかと不安そうに話している。

【事例2】

- 1) 基本情報：64歳、女性、夫、息子と3人暮らし
身長158cm、体重42kg
- 2) 現病歴：毎年健診を受けていたが、これまで異常を指摘されることはなかった。数か月前から咳がでるようになったが、風邪かと思い市販薬で対処していた。咳は徐々に悪化し、血痰も認めためたために近医を受診した。胸部レントゲン検査で異常所見を指摘され、当院を紹介され、精査目的にて入院した。
- 3) 既往歴：特になし
- 4) 来院時の様子
受け答えはできるが、時々せき込むことがある。これまで特に大きな病気をしたことがないのに大変な病気になってしまったのではないかと不安な発言がある。

【課題1】 診断にするのに必要な追加情報を求めよ。(受付時間：9時～10時半)

【課題2】 診断した疾病について生理学的に説明せよ。

【課題3】 今必要な検査・治療を根拠とともに説明せよ。

【課題4】 課題3について患者・患者家族にどのようにICをするのか説明せよ。

【課題5】 課題4のICの際に注意すべき点について述べよ。

【課題6】 事例について診断プロセスを症状・病名のプロブレム毎にSOAPにて記載せよ(複数可)。

<ルール>

- ①課題1は、9時から10時半までを受付時間とする。全員が質問する必要はなく、他者が尋ねた質問で得た情報も診断プロセスでは活用する。
- ②課題2～6を指定様式1に記載し、14時までに提出する。その後、14時から16時まで意見交換をWeb上フォーラムにて行う。1提出課題につき2回以上は意見を述べる。
*指定様式は、項目は変更せず、適宜枠は編集、追加してください。

第1期：課題提出・意見交換【課題2～課題6】

第1期（実習期間：平成28年2月8日～2月12日）参加者用フォーラムです。

以下の課題を様式1にまとめなさい。

【課題2】 診断した疾病について生理学的に説明せよ。

【課題3】 今必要な検査・治療を根拠とともに説明せよ。

【課題4】 課題3について患者・家族にどのようにICするのかを説明せよ。

【課題5】 課題4のICの際に注意すべき点について述べよ。

【課題6】 事例について診断プロセスを症状・病名のプロブレム毎にSOAPにて記載せよ。（複数可）

- (1) 各自ディスカッショントピックスを追加して、課題様式1を提出して下さい。
- ・ディスカッションフォーラムのトピック名は、「提出者氏名」とすること。例「姓〇〇名△△」
 - ・通信教育様式1日目をダウンロードし、記入すること。
 - ・提出時間期限14:00を厳守すること。

- (2) 他者の課題様式1に対して、それぞれのトピックス内で意見交換をしましょう。
- ・自分以外の全員のトピックに「2件以上の返信」を行うこと。

分譲グループ

ディスカッション

ディスカッションの開始

ク

返信

未読 ✓

最新の投稿

ルー

図 3-3. Moodle 上の課題提示の画面

拝見しました。ICの際、家族の不安を除去する言葉の選択は重要になりますね。私は、病気と疾患にとらわれていました。参考にします。

検査のICのところで、造影剤の使用についてありましたが、今回の頸部CTでは単純CTであり、造影剤の説明は不要な情報の提供になるかもと感じました。緊急のICの中で不要な情報を説明するのは家族の混乱を招く気がします。

親記事を表示する | 編集 | 分割 | 削除 | 返信

ご指摘ありがとうございます。

ICで不必要な説明がはいってしまいました。リスクも説明しなくては考えすぎてしまいました。確かに混乱を招くだけです。あれもこれもICの内容が増えてしまい、もっとポイントをしばって行うべきでした。

親記事を表示する | 編集 | 分割 | 削除 | 返信

術後、発症前までのADLに戻らない場合、地域包括ケアシステムの活用といったように、先を予測され、不安の軽減に努めようとされていることに、非常に大切なことだと思いました。

図 3-4. フォーラムの画面

2) ワークショップの活用

ワークショップとは、多くのオプションを持ったレビューおよび相互評価活動のことです。

受講者はファイル（デジタルコンテンツ）を提出することができます。また、フィールドに直接テキストを入力して提出することができます。

提出物は教員が作成した評価基準と評価フォームを用いて評価されます。相互評価手順や評価フォームを理解するために、教員から提供される練習用提出物と評価例を利用してあらかじめ練習を行うことができます。受講者には1つまたは複数の他の受講者の提出物を評価する機会が与えられます。必要であれば、提出およびレビューを匿名にすることもできます。

ワークショップ活動において、受講者は2つの評点を取得します。一つは「自分の提出物」に対する評点で、もう一つは「他の学生の提出物の評価」に対する評点です。両方の評点が評価表に記録されます。なお、評価では、ルーブリックを利用することもできます。

特定行為研修におけるワークショップの例では（表3-4）、受講者は、自分の課題をワークショップの提出フェーズ（図3-5）で提出し、評価フェーズ（図3-6）に移行した際に、ルーブリック（以下に示す）を用いて自己評価・他者評価を行います。

表. 3-4. ICTでのワークショップ企画案

II. 通信教育 2日目

自施設での経験した5大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）の事例のうち1事例を選定し、振り返りなさい。個人情報保護に留意しながら、事例説明を行い、以下の5つの課題に取り組みなさい。

- 【課題1】 選定した疾病について生理学的に説明せよ。
- 【課題2】 事例に必要な検査・治療を根拠とともに説明せよ。
- 【課題3】 課題2について患者・患者家族にどのようにICをするのか説明せよ。
- 【課題4】 課題3のICの際に注意すべき点について述べよ。
- 【課題5】 事例の症状についてのプロブレムに対するSOAPの中で優先順位が1番高い問題について記載せよ。

<ルール>

- ①課題1～5を指定様式2に記載し、13時までに提出する。その後、13時から15時までワークショップにて自己評価ならびに参加者全員の他者評価を行う。
- *指定様式は、項目は変更せず、適宜枠は編集、追加してください。

第1期：課題ワークショップ^②

セットアップフェーズ	提出フェーズ ^①	評価フェーズ ^②	成績評価フェーズ ^③	終了 ^④
<ul style="list-style-type: none"> ✓ ワークショップ説明を設定する ✓ 提出のインストラクションを記述する ✓ 評価フォームを編集する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 評価のインストラクションを記述する ✓ 提出を割り当てる 期待数: 9 提出数: 10 割り当て数: 0 ① 提出開始日時: 2016年 02月 11日(木曜日) 00:00 (33 日前) ① 提出終了日時: 2016年 02月 11日(木曜日) 13:55 (33 日前) ① あなたには時間制限は適用されません。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 相互評価 合計: 9 保留: 0 ① 評価開始日時: 2016年 02月 11日(木曜日) 13:55 (33 日前) ① 評価期限: 2016年 02月 11日(木曜日) 16:30 (33 日前) ① あなたには時間制限は適用されません。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 提出に対する評点を計算する 期待数: 9 計算数: 9 ✓ 評価に対する評点を計算する 期待数: 9 計算数: 10 ✓ 活動の結論を提供する 	

説明

第1期（平成28年2月8日～2月12日）参加者用のページです。

今まで経験した「事例」を振り返ってみましょう。
個人情報保護に留意しながら課題を提出すること。

- (1) 指定の様式（通信2日目_様式2）に記載し、13:00までワークショップに提出しなさい。
- (2) 13:00～15:00にワークショップで提出した事例の自己評価ならびに参加者全員の他者評価を行いなさい。

※ 指定様式は、項目は変更せず、適宜枠は編集・追加してください。

図 3-5. Moodle 上のワークショップの画面

第1期：課題ワークショップ

評価フォーム

クライテリア	レベル			
1.多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にアセスメントする臨床推論やフィジカルアセスメントの基本的な能力を見につける	○ 多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にアセスメントする臨床推論やフィジカルアセスメントの説明をサポートをけるうじてできる、もしくはできない（追加要求4個以上または4回以上）	○ 多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にアセスメントする臨床推論やフィジカルアセスメントの説明をサポートを受けできる（追加記載の要求2個または2回以上）	○ 多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にアセスメントする臨床推論やフィジカルアセスメントの説明を概ね自力でできる（追加記載の要求1個または1回）	○ 多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にアセスメントする臨床推論やフィジカルアセスメントの説明が的確にできる（追加記載の要求なし）
2.多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、安全に必要な検査・治療を選択できる。	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、安全に必要な検査・治療を選択できない（追加要求4個以上または4回以上）	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、サポートを受け安全に必要な検査・治療を選択できる（追加記載の要求2個または2回以上）	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、概ね安全に必要な検査・治療を自力で選択できる（追加記載の要求1個または1回）	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、安全に必要な検査・治療を選択できる（追加記載の要求なし）
3.多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、多職種と効果的に協働する最善のケアを導く能力を見につける。	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、サポートを受けても、多職種と効果的に協働する最善なケアを説明できない（追加要求4個以上または4回以上）	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、サポートを受け、多職種と効果的に協働する最善なケアをかるうじて説明できる（追加記載の要求2個または2回以上）	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、概ね多職種と効果的に協働した最善のケアを説明できる（追加記載の要求1個または1回）	○ 多様な臨床場面においての自らの看護実践を見直し、多職種と効果的に協働する最善なケアを説明できる（追加記載の要求なし）

図 3-6. 評価フォームの画面

3) 対面式とICT活用の組みあわせ例

特定行為研修では、ICTで演習を行い、その学びを持ち寄って、対面式の集合研修である実習につなげるができます。その例を表3-5に示します。

表 3-5. 対面式とICTを活用したプログラム例

月	火	水	木	金
通信教育 (Web会議) (事例の診 断、検査、治 療に関する意 見交換)	9時 身体診察・医療 面接レクチャー・実習 13時 カンファレンス (チーム医療・倫理・ 手順書)	9時 シミュレーション 実習 (SP、シミュレ ーター等) 16時 中間評価	通信教育 (Web会議) (自施設事例 の診断・治 療・看護の振 り返り)	9時 筆記試験 10時半 シミュレーショ ン実習 15時 試験(観察評価)

通信教育の事例検討で用いた症例を身体診察や医療面接の実習の際の患者設定として行うことで、事前に学習した病態生理や疾病論、検査学、臨床薬理学などの知識を活用して実際の医療面接や身体診察を行うことができます。

2. eポートフォリオによる受講管理と受講者への支援の例

ポートフォリオは受講者が主体的に学習記録を残しておくことができるだけでなく、どのように学習してきたかを確認できることに意味があります。

eポートフォリオの場合には、さらに受講者の学習経緯を指導者が確認できるメリットもあります。

ここでは、eポートフォリオとして比較的安価であるMaharaを活用した事例を紹介します。

ここで紹介しているMaharaを活用した事例では、LMSとして紹介したmoodleと連動した形を取っています。このように連動させるには専門家の協力が不可欠となります。

1) eポートフォリオによる学習記録

ここでは、ポートフォリオの特徴である学習記録を残すことについて、2つの機能を紹介します。1つ目は、日々の記録として日誌の形式で残すというものです。2つ目は、カレンダー上に「いつ」、「なにを」、「どの程度」、学習活動をしたのかを客観的に残すというものです。

1つ目の日々の記録として日誌の形式で残す場合は、図3-7に示すように自分の記載した内容を自由に残すことができます。この機能は、特に演習や実習で用いることが多いようです。



図 3-7. eポートフォリオによる受講者の日々の記録①

また、この日誌の機能は共有するメンバーの範囲を設定することができます。例えば、同じ演習グループのメンバーだけで日誌を共有するといったことも可能です。図 3-8 では共有した記録に別の受講者からのコメントが入っています。このように互いにコメントを出しあうことを促して、学習への意欲が継続されるようにしています。

学内実習 1 日目を終えて・・・

身体診察では、事例から必要な診察情報は何かを把握できず、ひたすら思い浮かぶ項目を診察してしまいました。フィジコやイチローなどを用いて練習を行い、短時間かつ必要な診察ができるよう実践を積んでいきたいと思えます。

医療面接では、事例がうつ病という設定でしたが、年齢や症状が認められたきっかけについての情報を引き出せておらず、中途半端な情報での報告を行ってしまい、結局何を伝えたいのかわからなくなってしまいました。得た情報から患者がどのような治療を望んでいるのか、率先して行わなければならないことは何なのかを考え、面接、報告していかねばいけないと思えました。報告の際に一時離れるだけで患者は不安になったり、今後どのようなになってしまうのか、悪い病気ではないかなど不安は常に頭にある状況であると思えます。気持ちを受け止めながら、患者家族に安心を与えられるような声かけ、対応を心がけていきたいと思えます。

コメントを追加する (詳細)

コメント



2016年 02月 18日 00:26

本日はお疲れさまでした！

私も思い浮かぶ身体診察のみを行ってしまい、それしか行えず、身体診察の知識の無さを痛感している3月の実習が不安を通り越して恐怖であり、患者さんに申し訳ないです。私も一緒にフィジコ氏とイチロー氏と練習させて下さい。

図 3-8. eポートフォリオによる受講者の日々の記録①

2) eポートフォリオを活用した受講者による受講管理

eポートフォリオでは、受講者が自分自身で「いつ」、「どのように」、「どこ」の単元を学んでいくのか計画を立てることが可能になります。図 3-9 に示しているのは、受講者が見る画面となります。簡単に例えるとすれば手帳の機能があるといえます。設定した予定を修正することも可能で、自分のペースを考えて設定することができます。

受講予定カレンダー

あなたが受講計画でスケジュールリングした受講予定を表示しています。
スケジュールに従いリンクをクリックしてMoodleで受講を行ってください。

 受講者氏名 : ██████████

← 4

SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
27	28	29	30	31	1
3	4	5	6	7	8
10 🔗 事後テスト 🔗 事後テスト 🔗 事前テスト 🔗 事前テスト	11 🔗 事後テスト 🔗 事前テスト 🔗 手順書作成の課題	12 🔗 事後テスト 🔗 事後テスト 🔗 事後テスト 🔗 事前テスト	13 🔗 事後テスト 🔗 事前テスト	14	15

図 3-9. カレンダー機能を用いた受講者による受講管理①

3) eポートフォリオによる学習管理の方法

受講管理として、指導者や指導補助者はeポートフォリオのMaharaの受講計画一覧を見ると、図 3-10 のように、受講者ごとの各科目の受講進捗を確認することができます。

受講生計画一覧

コース名

受講者名

完了予定日	状況	セクション名	テスト・課題名
	完了	第1回診察プロセス・医療面接の理論	レポート課題
	完了	第2回身体診察基本手技の理論・部位別身体診察の理論、高齢者・小児のフィジカルアセスメント	事前テスト_フィジカルアセスメント
	完了	第2回身体診察基本手技の理論・部位別身体診察の理論、高齢者・小児のフィジカルアセスメント	事後テスト_フィジカルアセスメント
	完了	第3回臨床推論の基本的考え方	事後テスト_臨床推論の基本的考え方
	完了	第4回臨床医学の基礎的理論	事前テスト_臨床医学の基礎的理論
	未受講	第4回臨床医学の基礎的理論	事後テスト_臨床医学の基礎的理論

図 3-10. 教員側から確認できる受講計画一覧の一部

4) eポートフォリオによる学習進度が遅れている受講者への関わりの例

受講者自身も、事前に自分の学習進度の計画を立てるだけではなく、図 3-11 のように受講振り返りシートを活用し、受講開始後も学習管理を続けていくことができます。さらに、Moodle の事後テストの結果が Mahara の受講計画に反映され、自分の全受講科目の受講完了・未完了が一見できるようになっています (図 3-12)。

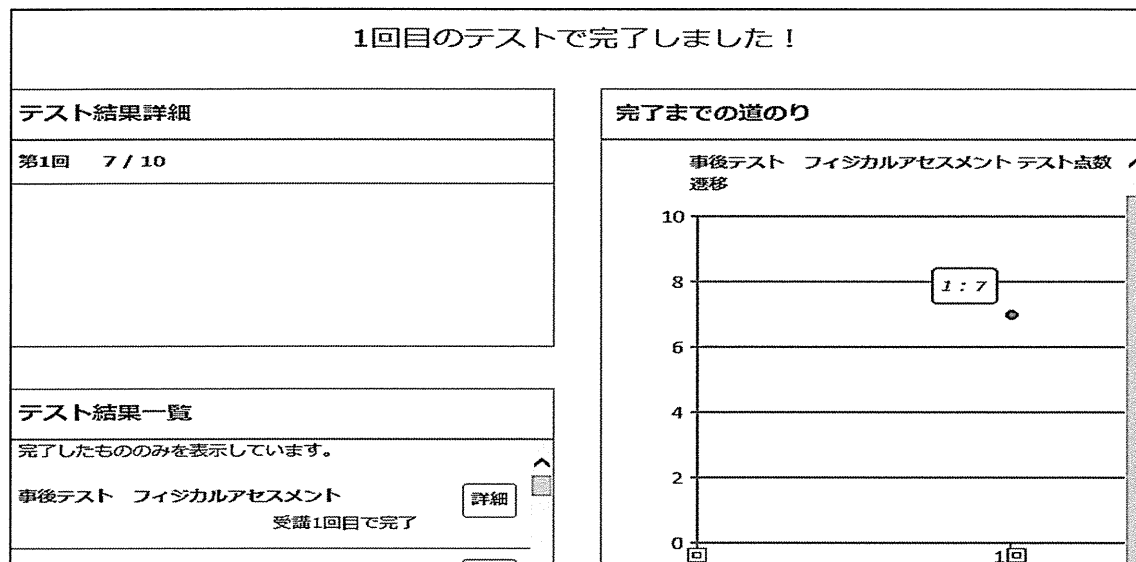


図 3-11. 受講者が確認できる受講振り返りシートの一部

あなたMoodleで所属しているコースが表示されています。
受講する日にちを設定し受講計画を立てましょう。
設定した受講計画はカレンダーに表示されます。

コース名	最終結果	進捗状況	第1回		第2回	
			第1回 事前ミニテスト	第1回 事後ミニテスト	第2回 事前ミニテスト	第2回 事後ミニテスト
創傷管理関連 褥瘡 I 2016.4		4/25	2016/04/07 完了	2016/04/07 完了	2016/04/07 完了	
創傷管理関連 褥瘡 II 2016.4		0/0				
ろう孔管理 (ろうろう・腸ろうカテーテル、ろうろうボタンの交換) I 2016.4		0/9				
ろう孔管理 (ろうろう・腸ろうチューブ、ろうろうボタン)		0/0				

図 3-12. 受講者が確認できる受講計画の一部

Mahara により受講者自身による受講管理や振り返りを活用しても、学習が予定通り進まない、もしくは、2 週間以上受講していないこと等が指導者側の Mahara の受講計画一覧で把握された場合は、まずは、受講者に Moodle、Mahara のいずれの機能にもある、メッセージを送信する機能(図 3-13)を活用して、受講の促しを行うことが受講離脱を防ぐために必要です。その場合、就労との関係で受講が進まない場合と、受講方法や内容がわからずに受講が進まない場合があるため、送信するメッセージでは、いずれの原因かをまず確認し、受講者がサポートを求めやすくすることが大切です。そのうえで、受講を進めていく期限などをさりげなく伝えておくこと受講者自身が危機感等からモチベーションを取り戻し、主体的に学習していくことにつながるでしょう。

メッセージを送信する

受信者 *

件名 *

メッセージ *

1月が経ちますが
進捗はどうですか？
5月の中旬に2科目、下旬に2科目の試験が予定されています。

本務との調整が大変かと思いますが
最後のダッシュをかけて頑張ってくださいね。

試験でお会いできますことを
楽しみにしていますよ。

メッセージを送信する キャンセル

図 3-13. Mahara のメッセージ機能

受講者自身へのメッセージだけでは受講が再開しない場合は、就労との関係も想定し、所属機関の管理者にも受講状況を報告し、受講者へのサポートを依頼することも重要です。その結果、受講が順調に進むようになった場合には、そのことも必ず報告しておくことが大切です。それによって、受講者と所属機関の管理者との関係を良好に保ち、かつ、所属機関の管理者が e ラーニングによる研修受講者への支援の必要性を認識するきっかけとなり、自施設内における受講者の学習支援体制づくりにつながります。

平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）		
「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」		
研究代表者	春山 早苗	自治医科大学看護学部教授 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-159 自治医科大学看護学部地域看護学 TEL/FAX 0285-58-7509
研究分担者	浅田 義和 阿部 幸恵 大湾 明美 亀崎 豊実 本多 正幸 本田 芳香 波多野 浩道 村上 礼子	自治医科大学情報センター講師 東京医科大学病院シミュレーションセンターセンター長・教授 沖縄県立看護大学教授 自治医科大学地域医療学センター学内教授 長崎大学医歯薬学総合研究科教授 自治医科大学看護学部教授 藍野大学医療保健学部教授 自治医科大学看護師特定行為研修センター教授
研究協力者	飯塚 由美子 江角 伸吾 浜端 賢治	自治医科大学看護学部講師 自治医科大学看護学部助教 自治医科大学看護学部准教授



平成26年度厚生労働科学研究費補助金
「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」

看護師の特定行為研修に係る実習等の指導者研修 の開催の手引き

平成27年3月

－ 目次 －

はじめに	-195-
1 実習等の指導者研修の趣旨	-197-
2 実習等の指導者研修のテーマ及び内容	-197-
1) 特定行為研修を修了した看護師の役割の理解	-197-
2) 指導者のあり方	-197-
3) 実習を行う際の指導計画作成時の工夫	-198-
4) 研修受講者の評価、実習内容の評価	-198-
5) その他指導者が留意すべき事項	-199-
3 実習等の指導者研修の開催期間	-199-
4 実習等の指導者研修の開催の形式	-200-
5 その他	-200-

【別添資料】

看護師の特定行為研修に係る実習等の指導者研修の進行表（例）	-201-
-------------------------------	-------

はじめに

地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（平成26年法律第83号）により、保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）の一部が改正され、平成27年10月から特定行為に係る看護師の研修制度が施行されることになった。

この新たな研修制度は、看護師が手順書により行う特定行為を標準化することにより、今後の在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成していくことを目的としている。

特定行為研修や指定研修機関の基準等については、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令（平成27年厚生労働省令第33号）において定められている。同省令により、特定行為研修は、共通科目（注1）及び区分別科目（注2）により構成され、それぞれの科目は講義、演習又は実習により行うものとされるとともに、特定行為研修を行う指定研修機関の基準としては、適切な指導体制を確保していること等が定められている。

特定行為研修が効果的に実施されるためには、特定行為研修を行う指定研修機関における指導体制の質の確保が重要である。このため、「保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令の施行等について」（平成27年3月17日医政発0317第1号）において、指導者は、特定行為研修の受講者である看護師に対する指導を行うために必要な経験及び能力を有している者でなければならず（注3）、特定行為研修に必要な指導方法等に関する講習会を受講していることが望ましいこと等が定められている。

また、特定行為研修が効果的に行われるためには、指定研修機関の研修責任者や担当者だけでなく、指定研修機関及び実習等を行う施設の指導者が、本研修制度の趣旨を理解するとともに、看護師がこれまでに受けてきた教育の特性を考慮した指導を行うことが求められる。

以上のような理由から、平成26年度厚生労働科学研究費補助金「診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究」では、特定行為研修の指導者に対して効果的な研修が提供されることを目指し、医学・看護学教育に関する有識者、医療機関関係者等により、特定行為研修の指導者を対象とした研修のあり方について検討していただき、実習等の指導者研修の開催の手引きを作成した。

特定行為研修に必要な指導方法等に関する講習会を開催するにあたり、本手引きを参考にすることで、効果的な研修の実現の一助としていただきたい。

- (注1) 共通科目とは、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能であって、全ての特定行為区分に共通するものの向上を図るための研修をいう。
- (注2) 区分別科目とは、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能であって、特定行為区分ごとに異なるものの向上を図るための研修をいう。
- (注3) 共通科目の各科目の指導者の中には、その研修の内容の特性に鑑み、少なくとも医師を含むこととし、その他の指導者も、医師、歯科医師、薬剤師又は看護師であることとされている。区分別科目の指導者には、その研修の内容の特定に鑑み、少なくとも医師を含むこととし、その他の指導者も、医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の医療関係者であることとされている。また、区分別科目の医師又は歯科医師の指導者は、臨床研修指導医又は臨床研修指導歯科医と同等以上の経験を有すること、看護師の指導者は、特定行為研修を修了した者又はこれに準ずる者であることとされている。

1 実習等の指導者研修の趣旨

実習等の指導者研修は、指導者の資質の向上及び実習を行う施設等における適切な指導体制の確保に資することを目的とする。

また、本手引きは、特定行為研修に係る実習等の指導者研修を開催する者に対し、研修の内容、研修の望ましい形式等を示すことにより、実習等の指導者研修の効果的な実施を推進することを目的とする。

なお、実習等の指導者研修の対象者は、医師又は歯科医師に限らず、薬剤師、知識及び経験を有する看護師等が想定される。

2 実習等の指導者研修のテーマ及び内容

実習等の指導者研修においては、以下に掲げるテーマ及び内容を含めることが望ましい。

1) 特定行為研修を修了した看護師の役割の理解

実習等の指導者は、特定行為研修の制度の目的及び特定行為研修を修了した看護師の役割を十分に理解し、指導に当たる必要がある。

また、指導者は、特定行為研修を修了した看護師が多職種協働を推進する役割を期待されていることや、根拠に基づいた医療の提供及び医療安全管理が求められることについて、十分に理解しておくことが必要である。

(実習等の指導者研修の内容例)

- ・ 本研修制度の趣旨
- ・ 特定行為及び特定行為区分
- ・ 特定行為研修の基準等（特定行為研修の到達目標、教育内容及び評価等）
- ・ 多職種協働（チーム医療）の推進における特定行為研修修了者の役割・期待
- ・ 根拠に基づいた医療の提供
- ・ 医療安全管理、院内感染対策

2) 指導者のあり方

実習等の指導者は、指導にあたってフィードバック技法やコーチング法を身につけることにより、効果的な指導を行うことが期待される。

また、特定行為研修の受講者である看護師は、これまでに受けてきた看護の教育・生涯学習とは異なる環境で学ぶことになることや、働きながら学ぶ者が想定されることから、指導者には、受講者の身体的・精神的コンディションにも配慮した指導が求められる。